

親子で一緒に見てほしい

つるのおんがえし

糸あやつり人形劇団 ピエロ

糸あやつり人形劇団「ピエロ」は、市内公立保育園の保育士の皆さん10人で、作っている人形劇団です。子どもたちを楽しんでもらおうと、アマチュア人形劇団の中でも、最初に人形劇に取り組み、17年目を迎えました。昨年、子どもたちに人形劇に親しんでもらおうと、公立保育園の4・5歳児に、



保育士仲間、力を合わせて頑張ります

「おやゆびひめ」を上演しました。保育士をしていての気の合う仲間同士が、練習できるのは、勤務後ですが、チームワークはバツチリ。新しいメン

バーも加わって、練習にも熱が入ります。話のクライマックス「ツルが美しく飛び立っていくところ」が、見もの。ツルは、頭・胴体・羽・足を二人がかりで動かしています。「日本に昔から伝わっている心情を伝えたい。親子で、一緒に見に来てほしい」と土光幸子さん（長船東保育園）は、話していました。

星の子きらりの初舞台とべないホタル

子ども糸あやつり人形劇グループ 星の子きらり

週休2日制が始まった平成14年に誕生した、人形劇グループ「星の子」の中心メンバーが、小学校を卒業、中学校に入学し、人形劇をする時間がとれなくなり卒



鈴木友子さん（右から4人目）から 手板の扱い方の指導を受けます

回しました。残ったのは小学生二人とお母さんだけでした。「せっかくある人形劇グループを、絶やしてはいけない」と邑久町公民館講座の人形作りグループ「きらり」のメンバーが、応援。「きらり」の大人3人、高校生3人とともに、「星の子きらり」が誕生しました。

人形作りや舞台の絵は、「きらり」のメンバーが、作製。声の吹き込みは、卒団した先輩たちが、手伝ってくれました。「とべないホタル」は、

勇気と優しさを与えてくれる物語です。光の芸術とも言えるホタルの美しい動きも見もの。強力メンバーが加わった新生「星の子きらり」の心のこもった人形劇を、皆さん見てください。

みんなでカブを抜いているところが見どころ 大きなかぶ

今城小学校人形劇クラブ りすっ子

「りすっ子」は、今城小学校の人形劇クラブです。6年生8人、

5年生2人の10人が、月2回、クラブの時間に活動しています。今年1月から人形作りを開始。服作りに大変苦労しました。地元で人形劇をしている松本玲子さんと今城小学校の教員2人の指導のもと、「りすっ子」の皆さんが力を合わせ、「大きなかぶ」に挑戦します。「人形が、本当にか



「うんとこしょ、どっこいしょ。うんとこしょ、どっこいしょ。なかなかカブが、抜けないなあ」

せるところが、難しい。人形が生き生き動いているかどうかを、見てほしい」と川部紗希さん（11歳・邑久町福山）は、話します。

元気のいい「りすっ子」の「大きなかぶ」。いつになつたら、カブが抜けるのかな？ 皆さん、「りすっ子」の活躍をお楽しみ

社会問題のメッセージ発信

やんちゃもたろう 糸あやつり人形劇団 ちょうかえる一座



6人で舞台裏はてんてこ舞い

男女共同参画や人権問題を、人形劇で分かりやすく啓発しようと、糸あやつり人形劇団「ちょうかえる一座」が誕生して、6年目

を迎えます。今年の「ちょうかえる一座」は、「子育て」をテーマにした、新作の人形劇「やんちゃもたろう」を上演します。2月頃から毎週集まり、8体の新しい人形や小道具作りに励みました。セリフに合わせ、人形を動かすタイミングや内面の感情をどう表現するかに苦心する皆さん。一人何役もこなす舞台裏は、熱気に包まれています。「こんな時代だからこそ、愛情のかけ方を、もう一度再認識してほしい。親子で見に来てほしい」と小林鈴代さん（49歳・邑久町豊原）。みんなが知っている「もたろう」とはちよつと違う「やんちゃもたろう」をどうぞお楽しみに。

友情の大切さを知ってほしい

しょうちゃんとりんごがほしかったネズミくん バラエティ劇場 どっこいほなまる

一人芝居で、観客を笑いの世界へ案内する太田和子さん（46歳・邑久町大富）。「どっこいほなまる」は、腹話術、手品、布絵本と多種類の催しをするバラエティ劇団です。

した。人形のしょうちゃんとの腹話術が、トレードマークの「どっこいほなまる」。子どもたちのつつこみにも、アドリブで切り返し、会場はいつも笑いの渦です。



布で動物作りに精を出します

人形劇場が満員で入れない皆さんに、少しでも楽しんでもらいたいと始めました。太田さんは、糸あやつり人形劇団「つきみ草」の一員でもあります。「二つを掛け持ちするのは大変ですが、それぞれやりがいがあります。とても充実しています。「しょうちゃんとりんごがほしかったネズミくん」は、友情の大切さをテーマにしたお話。「子どもたちの気持ちを引き寄せたい」と熱い思いを語っていました。